

～明石市水道事業の経営状況とこれから～
市民説明会 第1回

[開催結果]

1. 開催概要

日時：2025年（令和7年）5月24日（土）午前10時00分～午前11時30分

場所：魚住市民センター 3階 中会議室

2. 参加者

3名（市民：2名、議員：1名） ※他事業体職員3名傍聴あり

3. 主催出席者

8名

4. 説明内容

- (1) 明石市水道事業の概要
- (2) 現状と課題
- (3) 課題に対する解決策
- (4) 審議会で出た意見と今後のスケジュール

5. 開催状況



6. いただいた意見の要旨

※下線あり…説明会終了後、参加者にご意見等記入用紙に記入いただいた内容

【水源・水量】

- ・配水量が年々減少している傾向は、全国的にも同様なのか。
- ・水源ごとで費用が異なるのであれば、金額が安い水源を増量できないのか。
- ・農業用ため池の水を水源として使用できないのか。

【水質】

- ・P F A S 対策は、市民目線で実施してほしい。

【水道料金】

- ・水道料金（下水道使用料含む）が2か月約16,000円で既に高い印象である。
- ・お風呂の水を洗濯に使用しても、あまり水道料金が安くならない。

【水道経営】

- ・市の税金を水道事業に投入することはできないのか。
- ・遊休資産があるのであれば、売却するなど活用してはどうか。
- ・県水・阪神水道企業団の費用は、どのように支払っているのか。
- ・水道事業は、今後も市営を堅持してほしい。
- ・東京都が水道料金の基本料金を数か月無料にする状況のなかで、明石市は水道料金を値上げするのかといった市民の声が想定される。東京都と明石市では、財政状況が根本的に異なることを丁寧に市民に説明して、理解を得ていかなければならぬ。東京都はレアケースなので、あくまでも受益者負担の適正化のもと、着実に議論してもらいたい。

【施設の更新】

- ・埼玉県八潮市の下水道管に起因した道路陥没事故、京都市の水道管の漏水事故など、施設の老朽化による安全性を心配する。

【その他】

- ・予防保全、事後保全などの専門用語が難しい。
- ・上下水道事業について、市民の理解を深めるために、施設見学ツアーや小学校の授業で取り上げるなどの取組をしてはどうか。

以上

～明石市水道事業の経営状況とこれから～
市民説明会 第3回

[開催結果]

1. 開催概要

日時：2025年（令和7年）5月30日（土）午前10時00分～午前11時30分

場所：ウィズあかし 学習室701（アスピア明石北館7階）

2. 参加者

10名（市民：10名）

3. 主催出席者

8名

4. 説明内容

- (1) 明石市水道事業の概要
- (2) 現状と課題
- (3) 課題に対する解決策
- (4) 審議会で出た意見と今後のスケジュール

5. 開催状況



6. いただいた意見の要旨

※下線あり…説明会終了後、参加者にご意見等記入用紙に記入いただいた内容

【水源・水量】

(水源)

- ・阪神水道企業団からの受水について、神戸市を経由しており、神戸市との関係が重要になるので、よく話し合いをしてほしい。
- ・P F A Sは、技術的に濃度を下げることは可能であるのに、なぜ明石川河川水の水源を手放すのか。
- ・将来的な水源として、自前・県水・阪神水道企業団の適正なバランス割合を図ってほしい。

(水量)

- ・近年の気候変動により、少雨が続くことを心配する。仮に渇水となった場合は、どのような対策を行うのか。
- ・将来的に人口が増えた場合、水量的に供給の対応ができるのか。
- ・地下水が減少傾向であるが、維持するための対策が必要ではないのか。
- ・これからも節水等により、水道使用量が減少することは良いことである。

【水質】

- ・明石川河川水のP F A S問題がとても気になる。具体的にはどのような対策をしているのか周知してほしい。
- ・阪神水道企業団が取水している琵琶湖・淀川の水は、P F A Sなどの水質に対する不安はないのか。
- ・阪神水道事業団が取水している淀川から明石市まで長距離であるが、明石市に届いた時点で水質に問題はないのか。
- ・地下水の塩水化対策として、地下水を淡水化する技術を導入すべきである。
- ・水道水は、飲み水として安全であることがわかり、安心した。

【水道料金】

(体系の適正化)

- ・水道料金の体系が現状のままで良いとは思わない。
- ・メータ一口径 25 mm以下で水道料金が回収できていないのであれば、その料金体系を見直さなければならない。
- ・5 m³までの基本水量を取りやめ、1 m³以上から従量料金を設定したほうが良い。
- ・人口の増加に比例して、水道料金収入が増加する料金体系にしたほうが良い。

(体系の維持)

- ・将来的に子供の世代に、水道料金が高くならないようにしてほしい。
- ・使用量が少ない一般家庭の負担割合が低くなっていることに、市が経営している価値がある。

- ・地下水減少、河川水廃止、阪神水道企業団からの受水開始を踏まえると、水道料金が上昇予測になることがわからない。

(検討時期)

- ・前回の水道料金改定から20年経過しているが、これまでの間、料金値上げは不要であったのか。もっと早い段階から、水道料金の問題に手を付けるべきではなかったのか。
- ・数年前に前市長が「私が市長である限り値上げはしません」と発言していたが、その真相の是非はどうなのか。

(その他)

- ・世帯収入が少ない家庭に対する水道料金の減免はないのか。

【水道経営】

(人口予測)

- ・将来的な人口の推計予測は減少傾向であるため、国全体として出生率を増やす取組が必要である。
- ・人口減少に伴う水需要の減少は、水道経営にどのような影響があるのか。
- ・将来的な人口推計予測をシビアに低く見積もったうえで、経営戦略を立てるべきである。

(経営改善)

- ・市の税金が水道事業に投入できるような補助金制度を作れば良い。
- ・水道水を売る以外の収入を得るために、電気事業のように他事業を行って収益を増やすことはできないのか。
- ・そもそも、水道事業は黒字でなければならぬのか。
- ・民間企業から工業用水を購入して、水道水として活用することはできないのか。

(阪神水道企業団)

- ・阪神水道企業団の受水単価はいくらなのか。今後、値上げは想定されるのか。
- ・今後、阪神水道企業団からの受水量が増えていくことが想定されるが、受水単価は県水と比べて高価にならないのか。

(民間委託)

- ・民間委託による経費削減は、民間事業者に負担を強いているのではないのか。従業員の労働環境を心配する。
- ・民間委託の増加による職員数の減少も、すでに限界に来ていると考える。
- ・民間委託により、なぜ経費が削減できるのかわからない。

(新型コロナ)

- ・令和2年新型コロナによる基本料金の免除は、水道経営にどのような影響を与

えたのか。

- ・令和2年新型コロナ過の際に、基本料金を免除した費用を、市から税金で補填してもらうべきである。

(その他)

- ・東京都では、物価高騰対策として、水道料金の基本料金を数か月無料にする施策が打ち出されている。明石市でも採用してはどうか。
- ・市として、色々な課題を先送りにしてきたツケを清算するために、今後の経営をしっかりと考えるべきである。
- ・通信機能を備えた水道メーターを設置することにより、検針作業を省力化することができないのか。
- ・水道事業は公営企業であることを初めて知った。そのことを知らない市民は多いかも知れない。

【施設の更新】

(管路)

- ・どこの道路に、いつ埋設された管路が埋まっているのか、地図などで一般市民でもわかるようにするとともに、更新予定がわかるように「見える化」してほしい。
- ・管路の更新や耐震化を適正に進めるために、必要となる事業量の総額を算出すべきである。
- ・一定以上の口径管路の更新は、口径別に市の税金を補助金として、水道事業に支給すべきである。
- ・管路の更新予定及び更新済みの情報を公開してほしい。
- ・管路の老朽化により、断水した時の対策は検討しているのか。断水した場合、一人暮らしの高齢者や歩行困難な市民は、水の調達ができなくなる。

(その他)

- ・明石川浄水場は、明石川からの取水機能以外の一部機能が残るのか。
- ・貯水池を廃止して、例えば公園を設置するなどの土地利用をするのはいかがなものかと考える。
- ・阪神水道企業団の取水場や浄水場は津波に弱いと思われる所以、耐震化等の対策が必要である。

【その他】

(説明会)

- ・説明資料のページ数が多いうえに、内容が難しくて、理解できない。
- ・説明される方の口調が少し早かったが、意見交換で不明な点が明らかになって良かった。
- ・丁寧かつ莫大な資料を作成してもらい、水道事業の現状と将来的な課題を理解することができ、感謝する。
- ・市民にとって、水道事業は大切なことであるため、自治会ごとで、説明会を開

催してほしい。

(埋設物工事)

- ・水道管・下水道管・ガス管など道路埋設物の工事の際、掘って埋めての繰り返しなので、各者が協力して、まとめて工事をしてほしい。

以上

～明石市水道事業の経営状況とこれから～
市民説明会 第4回

[開催結果]

1. 開催概要

日時：2025年（令和7年）5月30日（土）午後3時00分～午後4時30分

場所：大久保市民センター 2階 第2・3会議室

2. 参加者

10名（市民：9名、議員：1名）

3. 主催出席者

8名

4. 説明内容

- (1) 明石市水道事業の概要
- (2) 現状と課題
- (3) 課題に対する解決策
- (4) 審議会で出た意見と今後のスケジュール

5. 開催状況



6. いただいた意見の要旨

※下線あり…説明会終了後、参加者にご意見等記入用紙に記入いただいた内容

【水源・水量】

(水源)

- ・阪神水道企業団からの受水について、神戸市との協議が重要になるので、適切に進めてほしい。
- ・昔から明石市の水はおいしいかったが、阪神水道企業団の水源は淀川河川水であるため、おいしくないのではないか。また、なぜ淀川の水を明石まで持ってくる必要があるのか。
- ・地下水は、安くておいしいので、もっと使用するために、深井戸の数を増やしてはどうか。
- ・地下水の塩水化の原因を解明して、塩水化対策を実施すべきと考える。
- ・明石川河川水を野々池・亀池に貯水していることに驚いた。また、明石川からの取水を取りやめることにより、野々池が不要になることが理解できた。
- ・普段、あまり飲み水として使用していないが、明石市の水がおいしい理由がわかった。

(水量)

- ・水道使用量が年々減少していることを初めて知った。
- ・明石川からの取水をやめて、野々池を廃止した場合、将来的な市民への配水量は確保できるのか。

【水質】

- ・P F A Sを除去するための活性炭処理に、多額の費用を要することは問題と考える。
- ・P F A S対策として、濃度が高くなる原因を排出していると思われる企業に対する調査などを実施しないのか。また、企業にそれなりの責任を負ってもらうよう、規制等を強化すべきである。

【水道料金】

(体系の適正化)

- ・水道料金を値上げするために、料金体系の変更が必要である。その際にメータ一口径 25 mm以下の水道料金の回収が論点になるが、市民に対して、どのように理解を得ていくかが課題である。
- ・これまでの右肩上がりで人口・水道使用量が増える時代から、これから右肩下がりで人口・水道使用量が減る時代を考慮して、料金体系を変更することは必要なことである。
- ・水道料金の値上げは、経営上致し方ないことは理解できるが、世帯数や値上げ幅など、一般家庭にどれくらい影響があるのか知りたい。
- ・メータ一口径 25 mm以下で、使用量 20m³／1か月の水道料金が安いことは、市民としてはありがたいが、原価割れの経営は決して健全ではない。

- ・安価でおいしい水であるが、コストが掛かるのであれば、それなりの適正価格とすることはやむを得ない。
- ・水道事業は、公営企業であり、水道料金の収入で運営しており、値上げを検討することは当たり前である。
- ・電気・ガスなどの値上げがあるなかで、使用量 20m³／1か月を値上げして、21m³／1か月以上を値下げすることは、一般市民より民間企業を優遇することになるため、心情として理解に苦しむ。

(検討時期)

- ・令和 8 年 3 月に審議会から市に答申があった後、水道料金値上げが議論される際に、値上げの必要性や値上げ幅等について、市長はどのような判断をするのか。
- ・具体的にいつ水道料金が変更になるのか知りたい。

(その他)

- ・明石市は、他市町に比べて、水道料金が安いのでありがたい。
- ・明石市の水道料金が、他市町に比べて、安価であることを理解した。

【水道経営】

(経営改善)

- ・明石川からの取水がなくなれば、野々池が不要になるなど、今後遊休資産ができるのであれば、売却するなど活用してはどうか。
- ・国から財政的な支援を得られるようにすべきである。
- ・市内に立地する民間企業を増やすことにより、水道事業の収入を増やすことができないか。
- ・P F A S の活性炭処理にコストを要するのであれば、活性炭を再利用するなど、経費を削減する方法は検討できないのか。

(民間委託)

- ・約 20 年間で、職員数が半減しているのは驚きである。職員数を維持もしくは改善していかないと、持続的な経営ができない。
- ・今以上に、職員のマンパワーを充実化すべきである。

(新型コロナ)

- ・令和 2 年新型コロナによる基本料金の免除は、水道経営にどのような影響を与えたのか。

(その他)

- ・市が抱えている課題をもっと具体的に説明してもらいたい。そうすれば、市民と膝を突き合わせた議論ができると考える。
- ・大口の水道使用者が減少していることに対して、市はどのように認識している

のか。

- ・民間企業が独自の地下水や工業用水を使用することを防ぐことはできないのか。
- ・水道事業の経営に、市の税金が投入されていないことを初めて知った。
- ・将来的には、下水道使用料も値上げとなるのか。
- ・民間企業がコスト面を重視し、循環水などを使用しているため、水道事業の収入が増えないことを理解した。

【施設の更新】

(管路)

- ・予防保全と事後保全の考え方を理解するが、漏水や道路陥没などが起きた際に、速やかに緊急対応を行う体制を整えてもらいたい。
- ・水道事業が厚生労働省から国土交通省に移管されたので、これからは水管の老朽化対策にも注力していくと考える。
- ・費用比較等により、できる限りリーズナブルな方法で管路更新をしてほしい。
- ・管路更新をスムーズに実施できるよう、革新的な技術を検討するべきである。
- ・審議会で議論している管路の更新パターンがベターと考える。

(その他)

- ・飲料水と洗濯などの生活用水に分けた2系統で、各家庭に配水することはできないのか。
- ・明石市は、水道も含めたライフラインをもっと充実させるべきである。
- ・地下水は、塩水化に加えて減少傾向であるにもかかわらず、市内西部では、今後も地下水に依存するため、魚住浄水場は更新工事を行うのか。
- ・施設の更新に要する費用は、どのように工面するのか。
- ・施設の更新費用は、国・市・市民がバランスよく相応に負担することで、何とか維持できないのか。3者が協力しないと、ライフラインが充実した住みやすい都市を実現できないと考える。

【その他】

(説明会)

- ・水道事業について、わかりやすく説明をしていただいた。今後も安全で安心な水の提供をよろしくお願いする。
- ・いろいろと勉強となり、感謝する。
- ・水道事業に対して、市民から意見や要望を伺うことについて、若干無理があると考える。

以上

～明石市水道事業の経営状況とこれから～
市民説明会 第5回

[開催結果]

1. 開催概要

日時：2025年（令和7年）6月3日（火）午後7時00分～午後8時20分

場所：Zoomオンライン

2. 参加者

5名（市民：4名、議員：1名）※他事業体職員3名傍聴あり

3. 主催出席者

5名

4. 説明内容

- (1) 明石市水道事業の概要
- (2) 現状と課題
- (3) 課題に対する解決策
- (4) 審議会で出た意見と今後のスケジュール

5. 開催状況



6. いただいた意見の要旨

【水源・水量】

- ・今後の水源としては、明石川河川水を廃止して、県水・阪神水道企業団からの受水を増やす計画なのか。
- ・近年、明石市は人口が増えているにもかかわらず、水道使用量が年々減少していることを初めて知った。
- ・洗濯機や食洗器など、家電製品の進化により、一般家庭での水道使用量が減少している。

【水質】

- ・明石川河川水のP F A S問題が気になる。西部配水場には、明石川河川水を浄水処理した水が入ってきていないことを確認できて、安心した。

【水道料金】

- ・平成17年以降、水道料金の値上げはしていないとのことであるが、個人的には上昇している印象はある。
- ・近年、水道料金を改定している自治体が増えているが、明石市を含めて、県内で比較的低料金の自治体でも料金改定が必要な状況なのか。
- ・結局のところ、将来的には水道料金の値上げは避けられないということか。
- ・令和8年3月に審議会から市に答申があった後に、具体的にいつ水道料金が変更になるのか知りたい。
- ・東京都では、物価高騰対策として、水道料金の基本料金を数か月無料にする施策が打ち出されている。明石市でも採用してはどうか。

【施設の更新】

- ・埼玉県八潮市の下水道管に起因した道路陥没事故が、明石市でも発生しないか、施設の老朽化による安全性を心配する。
- ・水道管の老朽化度の検査について、最近A Iを使用した検査・評価方法が開発された。費用や時間の削減ができ、必要な個所を集中的に修繕・更新できるので、このような最新技術を活用してはどうか。

以上